



ロータリーは機会の扉を開く

RI会長：ホルガー・クナーク
Herzogtum Lauenburg-Mölln RC

国際ロータリー第2790地区
The Rotary Club of Yachimata

八街ロータリークラブ週報

<http://www.joy.hi-ho.ne.jp/yachimatarc/>

例会場 八街商工会議所 3階 大ホール

毎週水曜日 12:30~13:30

電話 043 - 443 - 3021

FAX 043 - 443 - 7221

創立 1966年(昭和41年)5月22日



会長 木村 利晴 ・ 会長エレクト 笹川 英一 ・ 副会長 竹村 信彦 ・ 幹事 竹村 信彦

第55巻 第12号 通巻 第2599号 2020.11.11発行

第2598回 2020年11月4日例会報告

【出席報告】

SAA 福田 守

【ニコニコボックス】

例会	出席計算会員数	出席	欠席	出席率%	MU	修正出席率%
11/4	29	24	5	82.76		
10/13	29	17	12	58.62	3	68.97
会員総数 30名 (名誉会員 4名 ・ 出席免除会員 4名) 通算出席率 90.07%						



点 鐘 会長 木村 利晴

斉 唱 君 が 代

ソ ン グ 四つのテスト

お 客 様 米山奨学生
胡 経諸(コケイシヨ)様
東京大学大学院2年(工学部)

◇本人誕生日 ・ 萬来 謙一会員 ・ 小澤 孝延会員

◇奥様誕生日・伊藤 嘉一会員 ・ 高橋 宏一会員
・ 増田 繁会員

◇結婚記念日・高橋 宏一会員 ・ 鎌形 芳法会員
・ 幸 克己会員

◇八街神社例祭、無事終了 大野 眞里会員

◇藍綬褒章を頂きました 西村 清会員



【会長挨拶】

会長 木村 利晴



皆さん、こんにちは！11月最初の例会になります。

本日は、お客様として米山奨学生、東京大学在学の こけいしょさんにお越しいただいておりますので、後で卓話をお願い致します。宜しくお願いします。

先週10月28日の例会では、外部卓話に日本生涯現役クラブより藤代理事長をお招きし、1回目の健康講座を開催させて頂きました。現代病である認知症・アルツハイマー型認知症・糖尿病は生活習慣病で、食事・運動・睡眠・ストレス緩和で治る病気ですよ。というお話を頂きました。短い時間の中駆け足での講義でしたが参考になりましたでしょうか。次回は例会の時間を調整して頂き講座の時間を少し長めになるようお計らい頂けます様お願いしたいと思います。また、例会の終了間際に西村会員よりご報告がありました。今年度の褒章で藍綬褒章をお受けになられました。誠にめでたうございます。当クラブより受章者が出ることは、当クラブにとりましても大変名誉なことでもあります。尚、ガバナー補佐の橋本様より早速お祝いのメールを頂きました。「いつもお世話になります。八街RCの西村会員がこの度藍綬褒章受章の栄に浴されました。心よりお祝い申し上げます。千葉日報の関連記事を添付にてお送りいたします。」ということで満面の笑みでの西村会員が写っている新聞記事を送って下さいました。西村会員におかれましては、今後も健康にご留意され益々のご活躍をご期待申し上げます。おめでとうございます！さて、ロータリーでは、今月11月はロータリー財団月間ですのでロータリー財団についてお話をしたいと思います。ロータリー財団は、100年以上も前に創設されて以来、教育の支援や持続可能な成果を生み出すプロジェクトに総額40億ドル以上の資金を提供してきました。一つひとつのご寄付により、世界中の

地域社会を少しずつ変えていくことができます。ロータリー財団の使命は、ロータリアンが、健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすることです。ご寄付が世界にもたらす影響は、わずか60セントで、1人の子どもをポリオから守ることができます。50ドルで、水を介する疫病から人々を守るために安全な水を提供することができます。500ドルで、いじめ撲滅キャンペーンを立ち上げ、子どもたちに安全な環境をつくることができます。皆様から寄せられる寄付金は、ロータリー財団の補助金として各分野に授与されています。

2018会計年度では、ロータリー財団は1,306口、合計86,677,399ドルの補助金を授与しました。分野の内訳は、疾病の予防に\$35,660,986、安全な水に\$18,761,791、教育の支援に\$10,998,136、地域経済の発展に\$10,503,910母子の健康に\$7,204,677、平和の推進に\$3,547,899となっております。世界中の多くの人たちが救われております。ロータリアンの皆様におかれましては、ご理解頂き、今後ともロータリー財団へのご協力をお願い致します。

最後になりますが、ロータリアンと多くの皆様が笑顔で暮らせます様ご祈念申し上げ、会長挨拶を終わります。

【幹事報告】

幹事 竹村 信彦



《報告事項》

1. 会計報告
2. 会長幹事会 10月15日(木)
木村会長・竹村幹事
・グループ再編について
多くの地区で概ね承諾されており、引き続き説明をしていく。

- ・第10グループガバナー補佐について
成田RC会長の堀口氏に内定
- ・多古RCについて
年明けの会長幹事会に出席を依頼する
- ・今年度のIMについて(案)
2021年3月3日 成田ビューホテル
講演者 滝田洋一氏
日本経済新聞社編集委員 印西市出身

【会員卓話】

生形 健一 会員



3. 第10グループ事務局員会議 11月26日(木)
17時より(花むら)事務局 松原出席
4. 11月11日、18日例会 外部卓話 藤代博氏
「健康講話」
5. 12月2日例会 クラブ年次総会
6. ガバナーノミニー
(2023-24年度ガバナー候補) 決定
千葉若潮クラブ 鶴沢和広 会員
7. 第2790地区奉仕セミナー 12月20日(日)
12時30分 TKPガーデンシティ千葉
現地参加：木村会長、高橋国際奉仕委員長

《審議事項》

1. 次年度地区委員の推薦について
青少年育成プログラム委員会
*小久保 和子 会員を推薦
2. 12月23日クリスマス例会について
*夜間例会として実施

【幹事報告】

幹事 竹村 信彦

- ◎千葉ナイト開催について
日時：2021年6月13日(日) 19時～
場所：ホテルロイヤルニッコウ台北
登録料：24,000円
- ◎2021-22年度地区委員推薦のお願い
- ◎成田コスモポリタンRCより11月プログラム
- ◎藍綬褒章 学校法人千葉黎明学園理事長
西村 清 会員
おめでとうございます!

会員皆様には日ごろから米山記念奨学事業に対する温かいご理解とご協力を頂いていますこと心より感謝申し上げます。(公財)米山記念奨学金の主目的は「奨学生の育成」と「寄付の増進」です。「ロータリーの理想とする国際理解と親善に寄与すること」を目的としている米山記念奨学会は129の国と地域にまたがり累計21000名以上が卒業した国内で民間最大の規模の国際奨学事業です。「将来日本と世界を結ぶ懸け橋となって国際社会で活躍し、ロータリー運動の良き理解者となる」人材を育成するという事業の使命への期待は増々高まっています。世界各国の少子化対策で大学生や大学院生の留学生が奪い合いになっている現状で、国内の各有力大学も国際ランキングを重視し、授業が英語で行われるなど授業の国際化が進み、日本文化に触れる留学生が少なくなり、日本社会・日本人とも限定的な付き合いになっている現状もごさいます。カウンセラー制度のある米山奨学金制度の役割は今後更に重要度、社会的な必要性が高まっていくと考えています。今までの「母国と日本の懸け橋」というと祖国に帰国し、そして両国との懸け橋になってもらう考えになりがちでした。しかし、若いうち、働けるうちには日本に留まる考えの奨学生が多いとの結果が出ています。カウンセラー奨学生の人間関係が構築しやすくなったと共に、こうした留学生が国内で働き、国力を維持していくとも日本に留まりながら「母国との架け橋」を架ける時代に変化してきました。米山記念奨学会の財団法人の設立化の過程では一定の寄付額を会員皆様にお願ひし、定期的な金額を送金することを約束することで文科省から「財団法人」という冠を頂けた歴史がございます。米山奨学会への寄付金は2種類ございます。一つは普通寄付金、こちらは日本の全ロータリークラブ会員からクラブを通じて定期的にいただく寄付です。半期に1度、会員人数分をご送金いただきます。もう一つは特別寄付金です。個人、法人、

またはクラブから、普通寄付金以外に任意でいただく寄付金です。ロータリー関係者以外の一般個人、法人、団体からお受けします。金額にきまりはありません。いつでも、おいくらからでもご送金いただけます。クラブ事務局からご申請いただければ、税制上の優遇措置を受けるための申告用領収証を発行いたします。昨年の台風以来多くの地区会員皆様が本当に大変な思いで事業を展開されているとは思いますが、その中で心苦しくはありますが、普通寄付金の確保を最低限でもお願いしたいと思いますし、その延長上として、漆原摂子ガバナーの掲げる、個人平均寄付額一人当たり15000円の達成のためにご尽力いただければこの上なくうれしく思います。次年度はおかげさまでプラス4名の奨学生の受け入れ枠が増えました。これも地区会員皆様のご助力が形となって表れました。心より感謝申し上げますとともに変わらぬご支援ご協力のほどよろしく申し上げます。

【卓 話】

米山奨学生 胡 経諸様



〈自己紹介〉 私は胡経緒（コ ケイシヨ）といいます。中国天津市から参りました。今は大学院 2 年生で、建築を専攻としています。普段は音楽を聞くことや、まち歩きが好きです。

〈家族〉 家族は父、母と私からなった 3 人家族です。父は昔は気が短くて、よく口喧嘩をしていましたが、年をとるにつれて優しいおじさんになってきました。そして、なぜか 3 年前から若い頃の趣味の園芸を取り戻して、今は家には手の届く場所に植物があって、まるでミニサイズの植物園のようになっています。母は すごく優しい人で、最近ではヨガと数独に夢中になっています。

〈日本との出会い〉 私は初めて日本という国を知ったのは1996年のオリンピック大会を見たときでした。そのときに、両親が私に国旗と国家を教えてくださいました。日本の国旗が一番覚えやすかったので、その時から日本というところがあると知りました。初めて日本語を聞いたのは、名探偵コナンの歌を聞いたときです。そのメロディーがとても好きでしたが、日本語がわからなかったので、空耳に任せてよく歌っていました。それは小学2年生ぐらいのときでしたが、その時の私はこれからずっと日本語を勉強するとは全然想像できませんでした。それで、なぜ私は日本語の勉強を始めたのか、そのきっかけは父との偶然の雑談です。

〈日本語を勉強したきっかけ〉 小学校六年のある日に、父は新聞を読んだ時にある中学校の募集広告を見かけました。それは、外国語教育を特色として、普段成績が優秀であれば、センター試験を受けなくても学校を通じて名門大学へ推薦してもらえるとという中高一貫校です。しかも、入学試験で 90 位以上取れば、6 年間の学費がたった 6 万円で済むと言われています。それで、父が「こんな学校があるんだけど、受けてみる？」と言ったら、テレビでコナンくんを見ながらアイスクリームを必死に食べていた私は「いいよ」と軽く答えました。とりあえず受けてみると思っていたので、私は試験対策もしないまま試験日を迎えました。すると、運が良かったというか、しっかり実力を身につけていないというか、入学試験で 83 位として合格しました。出願のときに書いた専攻したい外国語の志望と入学試験の成績に応じて外国語のコースが決まることになっていました。しかし、私は順位が低かったため、第一志望のフランス語と第二志望のドイツ語に落ちてしまったため、第三志望の日本語を勉強せざるを得ないことになってしまいました。せっかく合格したので、中学入試を受けないと思って、入学することにしました。最初日本語を習った時、やや抵抗がありましたが、フランス語やドイツ語と比べてあまりにも発音が美しかったので、だんだん好きになってきました。中学 2 年生の夏休みに、日本の沖縄から短期留学で来た中学生と交流したことがあります。そのときに、あまり日本語が喋れませんでした。いつか日本に行ってみたいと思うようになりました。これも、私が現在日本にいる理由の一つです。

〈日本での旅〉 私は日本に来てから、受験勉強に取り組んでいました。大学に入ってから、建築を専攻としているので、よく見学を兼ねて旅行しています。四国、九州、北海道、金沢など、日本の様々なところへ行ったことがあります。その中で最も大きな収穫は建築の見学ではなくて、日本人や日本の風景、習慣との出会いでした。これから、いくつかのエピソードを紹介します。

〈一番怖い旅〉 2015年の2月に、四国の香川県へ一人旅に行きました。香川県では、瀬戸際芸術祭と呼ばれるイベントが毎年行われていて、国内外から大勢の観光客が殺到しています。私もその中のひとりでした。その中で、一番の見所は建築家の安藤忠雄さんが設計した直島にある地中美術館と西沢立衛が設計した豊島にある豊島美術館です。当時はまだ2月でしたが、四国にはもう春風が吹き始めて、海の匂いも漂っていました。翌日、私は早速直島へのフェリーに乗りました。直島には、美術館だけでなく、パブリックアートもあちこちありました。私は電動自転車を借りて島を一周して、芸術作品を見て満喫しました。午後、フェリーに乗って隣にある豊島へ向かいました。豊島はもっと自然豊かで、大きい島ですが、美術館とパブリックアートがそれほど多くありませんでした。豊島美術館を見てから、食事処を探していました。私は地図を読むのが苦手で、住民の住宅地に入り込んでしまっ、迷子になってしまいました。午後2時頃の豊島、周りが凍っていたように静かでした。ちょうどその時、スッとあるドアが開いて、一人のおばあちゃんが出ました。迷った私を見て、「どうしたの？」と話しかけてくれました。「美術館を見に来た」と答えたら、「どこから来たの？」と言われました。素直に「中国から来ました」と言ったら、日本にいる9年間で一番怖い言葉を聞きました。「外国から来たの？偉い偉い！殺されないようにね〜」と。その後、おばあちゃんが部屋に戻りました。私は以前は友達と一緒に「呪怨」という日本のホラー映画を見たことがあります。おばあちゃんの言葉を聞いて、心配してくれているだろうとわかっていますが、でもその全身に汗が流れるような不気味さでゾッとしました。その後、私は素早く自転車に乗って、港の方へ向かいました。私たちが観光地に行くときにいつも一方的に目で風景などを楽しみますが、地元の人たちと接して、実際に体でその場所を感じるのがめったにありません。当時はとても怖かった

ですが、今考えてみれば おもしろい経験でした。

〈一番おもしろい旅〉 2017年の3月に私は友達と一緒に九州へ行きました。行く前に、九州出身の同級生におすすめの建築や観光地について聞きましたが、「観光地？九州へ行ったらもちろん食べるんだよ！モツ鍋、ラーメン、刺し身…」と食べ物のお話をしてくれました。「中国人よりも食べ物に興味津々だね」とからかったら、「俺のお母さんは中国人だって知ってるの？」と予想外の情報を入手してしまいました。それで、私はインターネットで色々調べて、旅行ルートを作りました。「福岡から北九州へ、中津の火葬場を見てから大分へ、そして由布院の美術館を見てから、久留米を經由して福岡に戻る」というルートでした。福岡についたのは朝の9時でした。アイランドシティ中央公園と呼ばれる有名な公園を見学しました。二日目、その旅行の一番の目的地、「風の丘葬斎場」と呼ばれる有名な建築を見に行きました。その建築物は九州の中津市にあります。電車を降りて、駅を出たら、ここは日本じゃないだろうと思いました。駅前の広場にはほぼ人がいなくて、ひっそりしていました。友達と一緒にバス停で待ったら、ちょうどバスが来ました。私達の観光客みたいな格好を見たら、運転手さんが「葬斎場へ行くやろ」と話しかけてくれました。九州の人って熱心ですねと思いました。バスには、私と友達、運転手と一人のお客さんしかいませんでした。私と友達はバスの一番後ろに座っていました。バスが運転し始めたら、運転手さんが私達に話してくれました。しかし、運転手と結構離れていたし、九州方言もわからないし、せっかく話してくれたのに、全然返事ができませんでした。それで、失礼にならないように、前の席に移動しましたが、やはり聞き取れませんでした。それは、人生はじめて日本語が難しいと思った瞬間でした。私達は、聞き取れた言葉から話の内容を推測するしかできなくて、「はい」とか「いいえ」とかと簡単な返事をしました。とても長かった20分間を過ぎしてから、ようやく目的地に着きました。降りる前に、運転手さんが「帰るときに、また僕が運転するよ」とニコニコしながら言いました。私と友達はあの有名な建築を何回も回って見学しました。帰るときに、バスに乗るつもりでしたが、運転手さんの話を思い出すと、相手の話が聞き取れないので失礼ですから、やはり歩いて帰ることにしました。中津市には田んぼにも道にもあまり人がいませんでした。約20分ぐらい歩いたときに、後ろから車のクラクションが

聞こえました。道を譲りましたが、クラクションが止まりませんでした。振り返って見ると、なんとあのバスでした！ バスが止まって、前のドアが開きました。あの運転手さんが「早く乗って！」と促しました。私達がバスに乗って、一番前の席に座りました。すると、運転手さんが自分の弟が横浜で活動していた話をはじめました。また、北海道の話もありましたが、それは本当に聞き取れませんでした。10分間ぐらい過ぎて、私達は中津の有名な唐揚げ屋さんまで送っていただきました。運賃も無料にしてくれたし、このような熱心な方は初めてでした。最初は名建築を見に行きたいだけでしたが、まさにこのような展開になったとは思いませんでした。またいつか中津に行ってみたいと思いました。

〈一番癒やされた旅〉 去年の9月に、私は東北へと旅行しました。目的地はせんだいメディアテークという建築物でした。途中で有名な那須高原も通りかかるため、あそこにも寄ってみました。9月の東京はまだ真夏ですが、避暑地ともされている那須高原はもう爽やかな風が吹き始めます。私は運転できないので、面白そうな美術館しかいけませんでしたが、十分にリラックスできました。仙台についてから、早速目的地に行きました。一回り見学してから、北の石巻市の有名な猫の島に行くことにしました。翌日、私はフェリーに乗って、石巻港から田代島へ行きました。田代島では大漁の守り神として猫をととても大切にしています。しかも島の中央に「猫神様」を祀った猫神社があります。私達はフェリーを降りてから、猫神社へと向かいました。ついたときに、神社の周りに黒猫が一匹いました。私は声をかけてみましたが、猫に完全に無視されました。すると、5円玉を賽銭箱に入れたら、黒猫が「にゃー」と鳴いて、まるで「ありがとう」と言うようです。神社の近くに、「にゃんこ共和国」というカフェがあります。そのカフェの周りに、少なくとも30匹ぐらいの猫がいました。カフェには猫じゃらしが用意してあったので、思う存分で猫と1時間ぐらい遊んでいて、ストレスが一気に発散しました。カフェと神社以外に、田代島の猫の漫画展も行われていて、主催者が丁寧に登場した猫の性格や習性を紹介してくれました。猫大好きな私はこの小さな島で心を癒やされました。また日本人が自分の伝統を守りながら、

観光資源として利用することに長けるとは思います。

〈私とロータリー〉 私は去年に、ロータリーと出会いました。月に一回の研修会で、様々な国から来た奨学生と交流して、自分の知らない世界にふれることができます。私はこれがすごく大事だと考えています。他国の文化や出来事が鏡のようなもので、自分の国をより良く見ることができると思うからです。研修会を通じて、異文化交流のほか、奉仕の精神に関する理解も深めたと思います。人間同士が互いに助け合えば、社会全体が いい方向へ発展していくでしょう。私はまだ一人の学生だけで、力がないのですが、これからどんどん成長して行って、いつかロータリーで受けた恩恵を困った人に伝えていこうと思います。去年に現在所属している柏西ロータリークラブとも出会いました。最初はすごく緊張していましたが、みんなが親切に接してくれて、ニコニコと話しかけてくれたおかげで、思ったよりも早く慣れてきました。毎月の例会でも、いつもユーモア満載の発言が聞けて、真面目な日本人の面白い一面もわかりました。カウンセラーの方はもちろん、他のロータリアンの方も私のことに気を配ってくれます。去年は、通訳としてクラブの方々と一緒に姉妹クラブとの交流会に参加したり、会長交代式に出席させていただいたり、ライラに参加したりして、充実した一年間を過ごしました。今年はコロナウイルス感染症の影響で、三密を避けるためにイベントが少なくなりました。でも、毎回の例会で、担当者の方が安全第一を前提として、少しでも例会を楽しめるように、様々な工夫をしてくださって、本当に感服しました。同時に、ロータリアンの方々の行動もこれから社会に出るときの手本だと考えています。ロータリーと出会ってから、自分がいかに恵まれた環境にいるかを意識しながら、夢に向けて頑張っていくようにしています。ロータリアンのご支援のおかげで、私達奨学生は安心して勉学に集中することができるのです。これから、常に感謝の気持ちを持って、頑張っていきたいと思っています。

